



チーム嶋村 ガバナー月信

Take Action for Rotary Future. Reach Out for World Peace.

第4号 2022年10月発行



親愛なる会長のみなさん

9月9日(金)、10日(土)、地区大会が無事に開催されました。大会スローガンは「ロータリーに夢を」でした。ご出席いただきましたすべてのみなさんに感謝します。

会長のみなさんの感想はいかがでしたでしょうか？ 良い変化を生むために、インスピレーションが湧いてきましたでしょうか？ 新しい友はできましたでしょうか？ 会長のみなさんとのふり返りにより、会員のみなさんのロータリー活動への意欲が高まれば、たいへん嬉しいの一言です。

地区大会ホストクラブである東京新都心RCのみなさんにより、実に見事な開催としていただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。

1. スタート型の地区大会の意義

地区大会の目的は、クラブの会員がRIの最新情報や地区方針を確認することです。他のクラブの会員と交流すること、地区大会のさまざまなプログラムを通してロータリー活動への意欲を高めることも大切です。また、チーム嶋村の地区大会では、私たちの未来であるロータリーファミリーとの交流にも注力しました。

チーム嶋村の地区大会は、当地区では20年ぶりの年度前半での開催としました。佐藤芳郎RI会長代理(RI理事)から、RIからの最新情報と現状報告をいち早くお伝えしていただきました。ロータリーは変わりつつあることを実感いただけただけではないのでしょうか？ ガバナーである私からは、25のクラブでガバナー公式訪問を終えて見えてきたことも、「クラブコミュニケーションが大切です。クラブの課題解決について会員のお話を聴くことからです。クラブコミ



チーム嶋村 ガバナー月信

コミュニケーションにより、それぞれのクラブの個性に沿った、思いやりのあるクラブをつくりましょう」とお話しさせていただきました。

1 日目 (9 日、セルリアンタワー東急ホテル)

会長幹事会：

「対話」をテーマに取り上げ、クラブコミュニケーションの大切さを強調しました。「元気なクラブづくり」に邁進する会長幹事のみなさんに「勇氣凛凛前進しましょう」とエールを送りました。

地区指導者育成セミナー：

四宮孝郎 RI 研修リーダー (第 2660 地区パストガバナー。大阪西南 RC 会員) に、「ロータリーにとっての DEI」をテーマとして講演をいただきました。私の印象に残ったのは「受容」という言葉です。すべてをありのまま受け入れるということです。2019 年 1 月、RI 理事会において、ロータリーの「多様性・公平さ・インクルージョン」(DEI) の声明を採択しました。これからのロータリーの良い変化を生むためには、DEI の考え方を中心に置く必要があります。

RI 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会：

ポリオ根絶チャリティーディナーでした。有名シェフ 4 人のご協力を得て (食材費以外は無償ボランティアでした。また、セルリアンタワー東急ホテルからは会場を無償でご提供いただきました)、シェフのコラボレーションによるスペシャルな料理をいただくことができました。また、登録料のうち 1 人 3,000 円をポリオ根絶のための寄附としました。ご出席いただいた 310 名のみなさんと、ロータリーのポリオ根絶への思いを一つとする一夜となりました。

2 日目 (10 日、グランドプリンスホテル新高輪)

入会 3 年未満会員セミナー：

松本祐二さん (第 2690 地区パストガバナー。元第三地域ポリオ根絶コーディネーター。益田西 RC 会員) に、「ロータリー活動から幸せを！」というテーマで講演をいただきました。ご自身のポリオ根絶活動と合わせて、慶応義塾大学の前野隆司教授が執筆された「幸せのメカニズム」から紐解き、ロータリー活動の意義をわかりやすく説明していただきました。講演後には、多くの入会 3 年未満会員が、松本さんの周りに集まっていました。多くの共感を得たようでした。後日談です。講演を聴いた沖縄分区の会員から、「地区大会 2 日目の夜は講演のお話で盛り上がりました」と嬉しい報告をいただきました。

なお、上記セミナーと同一時間帯に、地区ロータリー財団部門により「ポールハリスソサエティとメジャードナーの集い」が開催されました。

本会議 (今月号に「本会議ダイジェスト」があります)：

登録者数は 1,547 名、そのうちロータリーファミリーは 110 名でした。佐藤芳郎 RI 会長代理ご夫妻を同期のガバナーである鈴木喬パストガバナーご夫妻がエイド (地区大会における RI 会長代理の補佐役) として先導されて、迎えることができました。感無量でした。

佐藤芳郎 RI 会長代理からのメッセージ (内容は上記しました) の後、ガバナーである私のあいさつとなりました。奉仕の



チーム嶋村 ガバナー月信

理念を携えてすべてのロータリー活動を推進することを推奨しました。ガバナー信条の一つ「Take Action for Rotary Future ロータリーの未来のために行動しよう」の実践例として、環境保全クリーン活動を紹介しました。元気なクラブづくりのための参加型奉仕活動です。主体的に考え行動することで、ロータリー活動の意義や新しい仲間との出会いを楽しみ、ロータリアンとしての誇りを呼び起こして欲しいとしました。また、もう一つのガバナー信条「Reach Out for World Peace 世界の平和のため手を差しのべよう」の実践例として、地区米山奨学部門による柿田川湧水公園清掃活動を紹介しました。ロータリーファミリーである米山奨学生・学友とのコミュニケーションは国際理解、世界平和につながります。

記念講演：

道下美里さん（東京 2020 パラリンピック女子マラソン視覚障害 T12 金メダリスト。福岡中央エンジョイロータリー衛星クラブ会員）に、「ともに輝くために私たちができること」というテーマで講演をいただきました。「チーム道下は感謝や幸福感を言葉にして、そのキャッチボールを行っています」という素晴らしいメッセージを私たちに届けてくれました。

特別講演：

関場慶博さん（第 2830 地区パストガバナー。弘前アップル RC 会員）に、「ポリオとロータリーと私」というテーマで講演をいただきました。私の尊敬する関場さんは、なぜポリオの根絶活動を続けるのかを私たちに問いかけました。ポリオのない世界を想像して、子どもたちに笑顔を届けるのが私たちロータリーの責務であるとししました。「ポリオの根絶の日までワクチンを届けることを続けていきます」と力強く宣言されました。

パネルディスカッション：

「ポリオとロータリーファミリー」を基調として、モデレーターを比留間孝司地区青少年奉仕部門長、パネリストを関場慶博さん、荒牧和沙さん（東京東江戸川 RAC 会員）にてパネルディスカッションが行われました。荒牧さんは、自身が参加したインドの NID（全国一斉ワクチン投与日）の体験について若者の視点からわかりやすくお話してくれました。「インドではワクチン投与の際、子どものお母さんの顔が必死でした。ワクチン投与が大事なことだと実感しました」とのことでした。関場慶博さんからは、「若者をインドの NID に送り出してほしい。この体験がその若者の人生を決めていきます。インド訪問は、1-2 日で体験、感動を得ることができます」とのメッセージをいただきました。

チーム嶋村の地区大会では、ロータリーは変わりつつあることと、奉仕の理念を携えてすべてのロータリー活動を推進することの大切さを強調することができました。ポリオの根絶に力を注いでいただいた旨をお伝えできました。また、私自身にとっても、たくさんの学びを得ることができました。

これからも「ロータリーに夢を」！ 元気なクラブづくりのために一緒に邁進しましょう！

2. 10月23日、24日は「世界ポリオデー2580」です

RI の最優先事項は「ポリオの根絶」です。RI は、1985 年、世界に約 35 万人と推計されるポリオウイルスに感染した子どもたちにポリオの根絶（当時は「撲滅」）を約束しました。それから 37 年経つ現在でも、世界はポリオフリーの日を迎えていません。2013 年、インドがポリオフリーになり、ポリオの常在国はパキスタンとアフガニスタンの 2 か国となりました。昨年は 6 件と今までで一番少ない発症者数になりましたが、今年も 9 月 14 日現在 23 の発症者数が報告されています。

日本でも、1960年には5,000人を超えるポリオの発症者がいましたが（北海道を中心に大流行）、生ポリオワクチンの導入により（1961年の一斉投与など）、1980年の1例を最後に野生のポリオウイルスによる新たな発症者は出ていません。そのため、ポリオへの危機感は薄れていますが、ポリオウイルスは国境を超え飛び火します。世界がポリオフリーになるまで、全世界でのワクチンの予防接種が必要となります。予防接種を受けない人や免疫を持たない人が増えると、海外から持ち込まれたポリオウイルスにより、日本でもポリオの流行が起こる可能性があります。

チーム嶋村は「ポリオ根絶は世界平和の道標」として、「世界ポリオデー2580」を展開させていただいています。10月23日(日)にはポリオ根絶街頭活動を、10月24日(月)には、1960年代にポリオ撲滅に奮闘する様子を描いた映画「われ一粒の麦なれど」の上映会を開催します（別紙の地区公共イメージ委員会の「フライヤー」をご参照）。ポリオ根絶街頭活動、上映会ともに、多くのロータリアン、ローターアクト、ロータリーファミリーにご参加いただきたいです。

ポリオ根絶街頭活動の実施日については、10月23日、24日以外でもかまいません。所属クラブでの街頭活動がない場合、他のクラブへ街頭活動への参加を奨励します。下記の街頭活動予定をご確認いただき、実施クラブにお問い合わせをしていただければと存じます。なお、東京御苑RCは、7月30日・31日、代々木公園台湾フェスタで募金活動を実施済みです。



街頭活動予定（順不同。以下、「実施クラブ」、「実施場所」、「実施日」の順に記載）：

〔中央分区〕

- ・東京セントラルパーク RC／阿佐ヶ谷ジャズストリート／10月22日

〔北分区〕

- ・東京浅草中央 RC／浅草神社（フラフェス in 浅草）／10月22日・23日
- ・東京荒川 RC／あらかわ遊園（ポリオの会のみなさんも参加）／10月23日
- ・東京上野 RC／上野公園（ジャイアントパンダ来日50周年記念イベント）／10月30日

〔東分区〕

- ・橋本雅克 AG グループ／柴又帝釈天／10月23日
- ・高橋映治 AG グループ、大澤栄一 AG グループ／JR 錦糸町駅／10月23日
- ・東京東江戸川 RC／JR 小岩駅／10月23日

〔武蔵野分区〕

- ・麻健 AG グループ／JR 吉祥寺駅／10月23日
- ・東京東久留米 RC／イトーヨーカ堂東久留米店及び東久留米駅／10月22日

〔沖縄分区〕（ポリオの会のみなさんも参加します）

- ・浦添 RC、那覇東 RC／パレット久茂地（歌って、語って、ポリオをなくそう）
／10月23日
- ・那覇南 RC、宮古島 RC／テンプス館／10月23日
- ・那覇 RC／小緑ジャスコ、新都心楽市他／10月23日
- ・名護 RC／イオン名護店（「古着でワクチン」）／10月23日
- ・那覇北 RC／サンエー那覇メインプレイス／10月23日
- ・石垣 RC、宜野湾 RC／場所調整中／10月23日
- ・コザ RC／地元行事で実施（沖縄こどもの国）／11月13日

ポリオのない世界を想像し、ポリオ根絶活動を通じて、元気なクラブづくりを目指しましょう。

3. 10月は米山月間です

ロータリー米山記念奨学事業は、みなさんのクラブも2年に1回（主に在京の場合）は世話クラブとして米山奨学生を受け入れているので、親しみのあるロータリー活動と思います。その事業は、将来、母国と日本の架け橋となり、国際社会で活躍する外国人留学生に奨学金を支給し支援することです。ロータリアンは米山奨学生をお世話しながら、奨学生の言葉に耳を傾け、ロータリー活動を一緒に行き、国際理解を高め、世界平和を希求します。日本のロータリーを代表する素晴らしいプログラムです。米山奨学生を受け入れているクラブであれば、会長のみなさんには、米山奨学生のカウンセラーに任せるだけでなく、クラブのファミリーとして会員との交流、対話をする機会をつくっていただきたいです（今月号の鼎談「米山奨学生とのコミュニケーション・交流は国際理解・世界平和につながります」があります）。

私は入会6年目である2012-13年度から4期、地区米山奨学委員会に所属させていただきました。その間に、他のクラブの素晴らしい仲間と知り合い、米山奨学事業の多くのプロジェクトを経験し、また、米山奨学生だけでなく米山学友との分厚い交流にもつながりました。おかげさまで、ロータリーモーメントを積み重ねることができました。「柿田川湧水公園の清掃活動」（静岡県駿東郡清水町にあります）もその一つです。「米山奨学生が奉仕を体感する機会が少ない」との声をいただきました。米山梅吉記念館に相談して、沼津柿田川 RC さんをご紹介いただき、このプロジェクトを立ち上げることができました。参加した米山奨学生は「日本三大清流の一つである柿田川の美しさが一番の思い出になった」と異口同音に言ってくれます。また、カウンセラーをはじめとするロータリアンが米山奨学生と丸一日、清掃活動を一緒にすることで、親近感が湧き、信頼関係が高まります。今年の9月4日、2014年に立ち上げたこのプロジェクトをガバナーとして実施できたことは、この上なく幸せな気持ちになりました。



来年3月4日（土）、「オープン型の米山期間終了式」を計画しています。例年の期間終了式は米山奨学生とカウンセラーの出席でした。本年度は米山奨学生を受け入れているクラブだけでなく受け入れているクラブを含む会長、幹事、会員のみなさん、米山学友にもお集まりいただき、交流しながら、米山奨

学生の卒業を祝っていただきたいです。ご参加の検討、よろしくお願いします。

4. これからガバナー公式訪問フォーラムを実施される会長のみなさまへ

9月16日までに、28のクラブでガバナー公式訪問を行いました。そのうち25のクラブでガバナー公式訪問フォーラムを開催していただきました。たいへん有難いことです。ガバナー公式訪問フォーラムは会長のクラブへの思いを基に、元気なクラブづくりを目指しています。そのためのクラブコミュニケーションのアップを含めて、私の全身全霊で支援させていただいています。もしガバナー公式訪問フォーラムの進め方などにお困りのことがあれば、私までお気軽にご相談ください。

私のロータリーモーメント（心に残るロータリー体験）④：

「インドのNID（全国一斉ワクチン投与日）の体験」

2012年4月、国際ロータリー第2830地区（青森）が主催されたインドのNIDに初参加しました。インドでのポリオワクチン投与活動は国際奉仕の実践です。多くの感動を得ました。また、関場慶博さんや他地区のロータリアンとの出会いは、私のその後のロータリー活動を大きく広げるきっかけとなりました。

私はインドのNIDに4回参加しました。初めてのインドのNIDの時、地元のロータリークラブがポリオを発症し足の不自由な若者を支援していると聞きました。その若者はロータリークラブから支給されたパソコンを使って、スラム街の子どもたちの学習支援をしていました。NID当日、スラム街の子どもたちはその若者をリアカーに乗せ、「今日は全国一斉ワクチン投与日です」と叫びながら街中を練り歩いていました（写真がその様子です）。その後も、東京東江戸川RCの若い会員や東京東江戸川RACの会員（地区大会パネルディスカッションの荒牧和沙さんもその一人です）に声をかけて、インドのNIDと一緒に参加しています。



チーム嶋村の国際奉仕部門では、来年1月のインドNIDツアーを計画しています。関場さんは地区大会で「若者をインドのNIDに送り出してほしい」と語りかけられました。私はポリオ根絶をレガシー（過去の業績）にするとともに、平和な世界を目指して行動しようという決意表明であったと感じました。私も会長のみなさんと一緒にポリオ根絶への思いを高めて、行動します。インドNIDツアーへのご参加、また、若者の参加への支援のご検討をよろしくお願いします。

2022年10月1日

国際ロータリー第2580地区ガバナー 嶋村文男

※ガバナーへのメッセージをお待ちしています→ info@motoffice.jp

チーム嶋村 ガバナー月信

クラブからのロータリー活動の情報提供

「未来にはばたけ！ 少年少女野球大会 in 東京ドーム」

執筆：東京本郷ロータリークラブ

2022年8月2日(火)、東京本郷ロータリークラブは一般財団法人シミズオクトベースボールアカデミーと共催により、福島県の子どもたちを招いて「未来にはばたけ！ 少年少女野球大会 in 東京ドーム」を開催しました。グラウンドで子どもたちは素晴らしいプレーを繰り広げました。未来にはばたく子どもたち、保護者、関係者の笑顔が溢れていました。

東日本大震災の被災地の子どもたちを応援する本大会は、2013年、東京本郷ロータリークラブが主導し、多くのみなさまのご支援を仰ぎ、東京ドームで第1回大会を開催しました。未曾有の被害を受けた東北3県（岩手、宮城、福島）から選抜された6チームと、同じく選抜された地元・東京の選抜チーム2チームが参加しました。その後、クラブ会員企業のシミズオクト様に主催が引き継がれ、2019年の大会まで、7年にわたり被災地の子どもたちに寄り添い、震災復興事業として継続していましたが、コロナ禍により中断していましたが、3年ぶりに再開ができました。



東日本大震災から11年余が過ぎ、被災地の復興、復旧は確実に進んでおります。しかし、原発事故被災地の福島県においては、今なお先が見通せず、苦しんでいる方々も少なくありません。大震災で得た経験、教訓を風化させることなく、次の世代に引き継ぐことは、大会に携わってきた者の使命と考えています。



インターアクトクラブからの活動報告

「文化祭で販売ボランティア」

執筆：東京女子学院中学校高等学校インターアクトクラブ

2022年9月18日、19日、東京女子学院中学校高等学校インターアクトクラブ（スポンサークラブ：東京ワセダRC）は、文化祭で東日本大震災の被災地支援として気仙沼の水産加工品と新宿福祉作業所の焼き菓子を販売いたしました。

気仙沼の水産加工会社「阿部長商店」さんにご協力いただき「さんまつみれ汁」「気仙沼チャウダー」「ふかひれスープ」「気仙沼港町パスタソース」などを販売しました。昨年お買い求めいただいたリピーターの方もいらして、嬉しい再会もありました。

インターアクターがどうしたらお客様にご興味を持っていただけるか、購入していただけるか、レイアウトや展示方法を考えて工夫しました。2日目は入り口近くに気仙沼の水産加工品を配置し、お客様の目に留まりやすくしました。商品名を書く札にもイラストを入れるなどしました。

「商品の販売だけでなく、仲間といろいろ考えたり、商品名を書く札を作ったりする時間もとっても楽しかったです」



「奉仕の理念」を再認識、ロータリーの未来への可能性に挑戦しよう

第3回「Service above self」「He profits most who serves best」

執筆：地区職業奉仕部門 部門長 藤掛靖元

会長のみなさま、こんにちは。8月号より連載のコラムをぜひ例会における会員のみなさまへの語りかけなどの素材にしていいただければと存じます

前回までのコラムでは、ロータリーが一番大切にしているものは基本理念である「奉仕の理念」であること、そしてこの「奉仕の理念」は「他人を思いやり、そして他人のために尽くすこと」でありその心は「利己と利他の調和」と言えること、私たちロータリアンはこの「奉仕の理念」を基に親睦を通し自己の向上を目指すことで人生観を広げるチャンスを得ることができることなどを述べさせていただきました。「あれ、奉仕の理念を言い現わす大切な言葉を忘れてない？」との声が聞こえて来ますね。そうです、「Service above self（超我の奉仕）」と「He profits most who serves best（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）」ですね。これはロータリーのモットーとして掲げられているもので、今まで述べてきたことはこの二つのモットーの中身を言い現わしたものです。「奉仕の理念」を現わす二つモットーがどのようにして生まれたのか、ここで初期ロータリーの歴史を振り返ってみたいと思います。

ロータリーは1905年、ポール・ハリスと3人の仲間（友人）により創立されました。最初は親睦とお互いの商売を融通し合う物質的相互扶助からのスタートでした。次第にお互いの商売のノウハウの交換（精神的相互扶助）も行われるようになります。しかし、「自分たちだけの自己満足の組織」との批判を受け、社会に役立つ活動をしようという奉仕の概念が生まれます。奉仕と言っても最初は困っている人々を助けるという弱者救済のための奉仕でした。親睦、相互扶助から奉仕に向かい始めたわけですが、親睦とお互いの商売の拡大のために入ったメンバーにとっては奉仕など論外、「奉仕、冗談じゃない。何が世のため、人のためだ！」となるわけです。奉仕の推進に反対し退会するメンバーも出始めました。1908年、奉仕について一歩進んだ理論を持つ人物が入会します。アーサー・フレデリック・シェルドン。ミシガン大学で学び自らビジネススクールを経営する理論と実務を兼ね備えた人物です。シェルドンは、Service(奉仕)という原因があって Profit(利益)という結果が生まれるという考え方を基に、「売り手と買い手の人間関係を重視し安定的に利潤を上げようと思えば取引の当事者間に物心両面の満足がなければならない。その前提として「相手の立場に立って考える」という心が必要である。まず奉仕に徹せよ、相手の立場に立って考えよ」と説き、「He profits most who serves best」を打ち出します(2010年の規定審議会で「One Profits Most Who Serves Best」に変更されております)。

一方、「自己を滅却してサービスの世界に帰一せよ。Service, not self」との考えも現れます。これに対し、自我があってこそ自己を磨くことができる、notは自己否定が強すぎる、それならabove selfでどうだ、との意見から「Service above self」がもう一つのモットーとして取り上げられ、ここに「奉仕の理念」を現わす二つのモットーが登場したのです(Service, not selfは別の見解もあります)。

この「奉仕の理念」はロータリーの基本理念としてセントルイス宣言決議23-34号に明文化されます。次回のコラムでは、いよいよこの決議23-34号についての紐解きを行います。

チーム嶋村ガバナー月信編集委員会レポート

「地区大会本会議ダイジェスト」

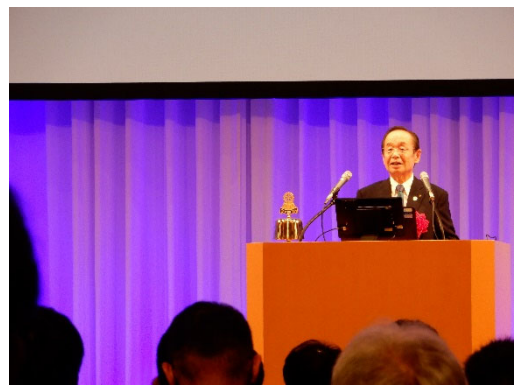
執筆：地区ガバナー月信編集委員長 茂木正光

2022年9月10日（土）、グランドプリンスホテル新高輪にて、地区大会本会議が開催されました。大会テーマは「ロータリーに夢を」でした。

1. RI 会長メッセージ並びに RI の現況報告

「ポール・ハリスは、「ロータリーは時代に合わせて進化しようとしています」としました。ロータリーは変わっていかなくてはなりません。また、我々のロータリーを育てていきましょう。そのために、後に入ってくれる人を育てていきましょう」

佐藤芳郎 RI 会長代理（RI 理事）より RI 会長メッセージと RI 現況報告が行われました。ジェニファー・ジョーンズ RI 会長のコメント、「ロータリアンにはまだまだやれることがあるはず」を引用され、「将来に向かって、思いを描いて、実現していきましょう」と意識されました。世界のロータリーの現状として、コロナの影響によりアジア、アフリカ以外は会員数が減少していることが報告されました（なお、アジアはインドのみ増えている）。世界的な会員増加の施策として、パイロットゾーンと基本戦略の紹介がありました。ゾーン管理構造の効率化（ガバナー制度含む）と言語・慣習・民族性等からの地域化です。また、会員が求めていることに向き合う必要があるとして、次のとおり例示しました。①社会奉仕（地域貢献）の機会をつくる、②人と人のつながりの機会をつくる、③職業人としての成長・リーダーシップ育成の機会をつくることです。ポリオ根絶についてもコメントがありました。10月24日の世界ポリオデーは公共イメージ向上、クラブの活性化につながるとしました。



2. ガバナーあいさつ

「クラブの課題解決について、会員のお話を聴くことからです。クラブコミュニケーションにより、それぞれのクラブの個性に沿った、思いやりのあるクラブをつくりましょう」

嶋村文男ガバナーは奉仕の理念を携えてすべてのロータリー活動を推進することを示しました。たとえば青少年奉仕であれば、次世代を担うロータリーファミリーに成長の機会を提供し、ロータリーファミリーからお話を聴き、それによりロータリアンも成長につながるとします。本大会にも多くのロータリーファミリーを呼び、ロータリアンとの交流の機会をつくります。また、各クラブ、各会員に対して、10月23日、24日に開催を予定している世界ポリオデー2580への参加を推奨し、「ポリオの根絶は世界平和の道標」としました。



3. 記念講演「ともに輝くためにわたしたちができること」

「自分が変われば、周りが変わります。自分、周りを信じて、自分だからできることにチャレンジしていきます」

道下美里さん（東京 2020 パラリンピック女子マラソン視覚障害 T12 金メダリスト。福岡中央エンジョイロータリー衛星クラブ会員）により行われました。終始ニコニコされ、その明るい声は聴く者を元気にさせます。道下さんは、小学校 4 年の時に難病を発病し、右目を失明しました。さらに、20 代で左目も発症し失明。26 歳から盲学校に通いダイエットを兼ねて走り始めました。右目はまったく見えず左目は光をぼんやり認識できるだけです。伴走者や協力者らとともに、チーム道下として金メダルを獲得しました。マイデータを収集、チーム道下で共有して、成果につなげています。自分を可視化しています。自分自身を分析し研究しています。たとえば、ストレス項目を 6 段階評価しています。分析をすれば、パターンが見えてきます。また、伴走者とのコミュニケーションも大切です。失敗した時に、何が原因か、話し合い、考え、改善しています。批判よりも提案、思考よりも行動です。チーム道下は感謝や幸福感を言葉にして、そのキャッチボールを行っています。継続と積み重ねにより、安定して結果を出せています。



4. 特別講演「ポリオとロータリーと私」

「ポリオワクチンを最後の一人になるまで届けます。ポリオのない世界を想像しましょう。ポリオの恐怖から解放することはロータリーだからこそできることです。ロータリアンとしての誇り、自信を持って行動しましょう」

関場慶博さん（第 2830 地区（青森）パストガバナー）により行われました。弘前で小児科医をされています。20 代の頃、アフリカ／ガーナで医療に従事されました。当時、発展途上国では、ポリオ患者は松葉杖もなく、地面をはいずり回っていることもありました。ポリオ患者の少年から、日本の子どもは 100% 予防接種ができていることを羨ましがられました。「ぼくたちは貧乏だから、予防接種ができない」と嘆いていました。これがきっかけです。その後、ロータリアン、ガバナーとなり、インドでのポリオワクチン投与活動（NID）を始めました。この活動は現在も継続されています（コロナにより中断。来年 1 月、再開予定）。現在、コロナの影響により予防接種の機会が制限され、結核、麻しん、そして、ポリオの感染増加が懸念されています。最近、ニューヨーク、ロンドン、イスラエルの下水で、ポリオが確認されました。ニューヨークでは 1 名の感染者が出ました。ポリオは 1 名の感染者が見付かると、100 名の感染者がいるとされます。それらの地域では子どもへの接種をさらに進める必要があります。



5. パネルディスカッション「ポリオとロータリーファミリー」

関場慶博さんから若い人にポリオをどう伝えるか？について

「若い人にロータリーはこういうものと説明し、後は例会に来てくださいで不足です。たとえば、インドの子どもへのワクチン投与とつながりのようなインパクトが必要ではないでしょうか？ また、若い人たちがそういった活動に参加するための支援が必要ではないでしょうか？」

モデレーターは比留間孝司地区青少年奉仕部門長、パネリストは関場慶博さん、荒牧和沙さん（東京東江戸川ローターアクトクラブ会員）です。荒牧さんは、20代前半の頃、インドでのポリオワクチン投与活動（NID）に2回参加しました。これは嶋村ガバナーの熱意によりました。荒牧さんには忘れられない場面があります。日本であれば予防接種は、子どもは泣いているかもしれませんが、医師や家族は笑っていて和やかです。しかし、インドでは、子どものお母さんの顔が必死でした。ワクチン投与が大事なことだと実感しま

した。投与の後、お母さんが笑顔になったのを見て、涙しました。その時の動画を撮りました。今でもそれを見返して、心を新たにしています。子どもの健康はとても大事なことです。私は来年、母になります。ポリオワクチンの大切さを痛感しています。しかし、同年代の女性はそのことを知りません。日本には乳児・幼児のための4種混合ワクチンがありますが、ポリオに感染したらとりかえしがききません。もっとポリオの認知度を上げなくてはならないと考えました。特に、若い人たちに対してです。



チーム嶋村「元気なクラブづくりのための鼎談」第5回：

「米山奨学生とのコミュニケーション・交流は国際理解・世界平和につながります」

9月5日、嶋村文男ガバナーと、猪飼昭彦さん（地区米山奨学部門 部門長）、インタラチット・ヌンヌットさん（タイ米山学友会。2006-07年度米山奨学生、世話クラブ：横浜鶴見北 RC）とで「米山奨学生」の鼎談を行いました。

鼎談に先立つ9月3日、4日、チーム嶋村の米山奨学部門によるイベントが開催されました。1日目は研修とテーブルディスカッション、2日目は柿田川湧水公園の清掃活動でした。ホームカミング制度（活躍する米山学友（元米山奨学生）を各地区が毎年度上限2名までを選び、地区の行事に招待して、地区内のロータリアンへその活躍ぶりを披露していただく制度）を利用して、タイの米山学友、インタラチット・ヌンヌットさんをお招きし、1日目の研修で卓話を行っていただき、2日目は米山奨学生とともに清掃活動を行っていただきました。



今回の鼎談は、米山学友会や柿田川湧水公園の清掃活動などを通して、米山奨学事業の素晴らしさ、世界平和の取組みについて、会長のみなさんに理解していただくための企画です。米山奨学生にこういうふうに接すれば、米山奨学事業の素晴らしさがもっとわかってもらえる、そういうヒントを提供します。また、内容としては下記のとおりです。

- ①米山奨学生における米山奨学事業・ロータリーへの理解の進み方（初めはよくわかっていないです）
- ②米山奨学生が困っていること（日本における就職活動が挙げられています）
- ③米山奨学生とロータリアンのコミュニケーション（カウンセラーの役割は大切です）

などです。嶋村ガバナーは、「ロータリアンが米山奨学生のみなさんからいろいろな情報、国の実情を聴いて、国際理解をする」ことが大切とします。

ポイントとなるコメントは次のとおりです。

嶋村ガバナー：「(米山奨学生を含む) ロータリーファミリーとつながって、ロータリアンにも刺激を得ていただきたいです」

インタラチットさん：「(ロータリアンは) 家族みたいなものです。気軽になんでも相談できます」

猪飼部門長：「(来年3月4日、米山奨学生の期間終了式をオープン型で開催します。) 期間終了式はとても良い雰囲気、感動的な場面があります。しかし、参加されないとなかなか説明しづらいです。本年度、米山奨学生を受け入れていないクラブのみなさんにも参加していただき、米山奨学生の良い場面を見ていただく機会としたいです。式典で人のお話を聞くだけではなくて、人との関り、交流をつくっていただきたいと強く思っています。ぜひ、ご参加よろしくお祈いします」

※ YouTube からご覧いただくこともできます (32分10秒)。下記 URL をクリック。

<https://youtu.be/pmGYLsacD5U>

目次：

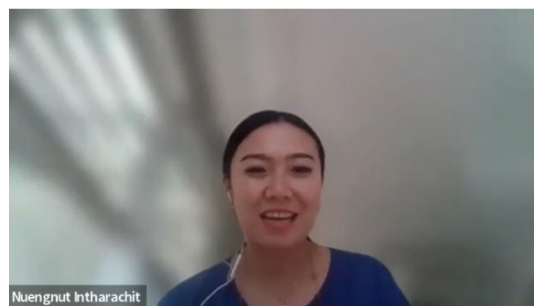
1. 鼎談の趣旨とインタラチットさんの紹介
2. インタラチットさんとの出会いとタイ米山学友会の設立
3. 柿田川湧水公園の清掃活動
4. ロータリアンと米山奨学生との交流
5. 交流から国際理解、世界平和へ

1. 鼎談の趣旨とインタラチットさんの紹介

嶋村（敬称略。以下同じ）：昨日（9月4日）、チーム嶋村の米山奨学部門の大きな柱である柿田川湧水公園の清掃活動を行いました。主催いただいた猪飼部門長、ご参加いただいたエーさん（インタラチットさんのこと）のお二人は、お疲れとは存じますが、本日よろしく申し上げます。10月は米山月間です。私は入会6年目で地区米山奨学委員となり、4年間、務めました。たくさんのロータリーモーメントがあります。エーさんをはじめ米山奨学生の素晴らしいみなさんと交流ができました。私は米山奨学事業の意義を良く理解し、大切に思っている一人です。本日の鼎談は米山奨学事業の素晴らしさ、世界平和の取組みについて、会長のみなさんに理解していただくために企画しました。本年度米山奨学生を受け入れているクラブの会長だけでなく、次年度以降に受け入れるクラブの会長も含まれます。次年度以降に受け入れる際に、こんなことをしてみたい、本年度の米山奨学生にこういうふうに接すれば、米山奨学事業の素晴らしさがもっとわかってもらえる、そういうヒントをこの鼎談で提供できればと思います。本日は、ホームカミング制度（活躍する米山学友（元米山奨学生）を各地区が毎年度上限2名までを選び、地区の行事に招待して、地区内のロータリアンへその活躍ぶりを披露していただく制度）を利用して、来日しているタイの米山学友のインタラチット・ヌンヌットさん、地区米山奨学部門長の猪飼昭彦さんのお二人と鼎談を行います。まずは、インタラチットさんから自己紹介、世話クラブ、そして、世話クラブの方々とのような交流をしたかお話しいただけますか？



インタラチット：私は神奈川大学経済学部を卒業しました。2006-07年度、横浜鶴見北 RC にお世話をしていただきました。今もお世話になっています。お世話していただいたクラブのみなさんと、今でも、毎年交流をしています。また、タイ米山学友会にも入って、いろいろなみなさんとつながっています。



嶋村：米山奨学生だった時のカウンセラーとの思い出はありますか？

インタラチット：初めてクラブに行った時はびっくりしました。おじさんばかりだったからです。その頃は、米山奨学について何もわかっていませんでした。月1回、例会に出席して、いろいろなロータリアン

チーム嶋村 ガバナー月信

とお話ししました。困っていることとかにいろいろサポートしてくれました。私のカウンセラーはお坊さんでした。タイのお坊さんと日本のお坊さんのことを、お寺に遊びに行って、いろいろ教えていただきました。すごく勉強になりました。

2. インタラチットさんとの出会いとタイ米山学友会の設立

嶋村：楽しい米山奨学生時代でしたね。猪飼部門長には、ホームカミング制度を利用してエーさんを当地区にお招きいただきました。猪飼部門長とエーさんとの出会いをお話いただけますか？

猪飼：タイの米山学友会は出来て10年ほどです。バンコクで国際大会が開催された時に、ビチャイ・ラタクル元 RI 会長から要望によりチャーターナイトを行い、設立されました。その前年、ロータリー米山記念奨学会の事務局長だった坂下博康さん（本年度の東京北 RC 会長）と私の二人で設立の準備会を立ち上げました。20人ぐらい集まりました。私はたまたま、オン・ツー・バンコクの委員長でしたので、「バンコクに一緒に行かないか？」とお声掛けをいただき、初めてタイへ行きました。その時に、エーさんとお会いしました。その頃、エーさんは日産自動車の本社にお勤めだったので、タイの米山学友会を立ち上げるために帰国し、1泊か2泊でまた日本に戻られることに驚きました。すごい方がいらっしゃるなど。そこで、いろいろなお話しをさせていただきました。それからですので、10、11年のお付き合いをさせていただいています。



嶋村：米山奨学生は年間800名ぐらいが日本にきています。本年度当地区は何名でしょうか？

猪飼：当地区は38名です。昨日も多くのお米山奨学生と触れ合いました。エーさん。当地区の米山奨学生と交流して、何か感じましたか？

インタラチット：いろいろな方とお会いでき、お話しができました。文化とか、日本で困っていることについてです。困っていることの多くは就職活動です。何を準備すれば良いか、また、会社の選び方など、すごく質問されました。

嶋村：米山奨学生だった時に、就職活動についてロータリアンに相談しましたか？

インタラチット：外国人なので、就職活動は日本人と異なります。外国人の先輩にしたほうが、経験など含めてマッチします。

嶋村：2016-17年、ミャンマーの米山奨学生のカウンセラーを務めました。学校に行って、指導教官、国際交流・就職の担当からお話し聞いてほしいとアドバイスしました。こういうのは効果的でしょうか？

インタラチット：そうですね。経験がある方のお話しは効果的です。良く質問されるのは、面接の時にどうい質問をされたかです。

嶋村：ありがとうございます。タイ米山学友会設立のお話しをしていただけますか？

インタラチット：最初に声を掛けられたのは、国際ロータリー第 2590 地区（横浜・川崎）の米山学友会の会長だった時です。第 2590 地区で米山学友を集めていました。タイ米山学友会の設立では、ロータリー米山記念奨学会の事務局とタイと一緒に行って、タイ人の米山学友に説明し、理解していただきました。そして、2012 年、立ち上げることができました。

嶋村：今年が丁度 10 年ですね？

インタラチット：そうですね。

3. 柿田川湧水公園の清掃活動

嶋村：柿田川湧水公園の清掃活動で感じたことはありますか？

インタラチット：すごく良いイベントでした。1 日目は会議室で研修でしたが、2 日目は清掃活動しながらお話しする時間がありました。いろいろな質問があり、交流もありました。社会奉仕事業、清掃活動を一緒にでき、仲良くなりました。相談も先輩・後輩としてできました。



嶋村：チーム嶋村は、ロータリーファミリーとつながって、ロータリアンにも刺激を得ていただきたいと考えています。準備はたいへんだったと思います。猪飼部門長、いかがでしたでしょうか？

猪飼：当初は 1 泊で研修と清掃活動したが、コロナの影響で宿泊はせずに実施となりました。1 日目は研修でした。エーさんとクリスタル・バーネットさん(2017-18 年度米山奨学生、世話クラブ：那覇北 RC。RYLA 学友、那覇 RAC 会員)に卓話をしていただきました。卓話をしていただいたのは、10 月が米山月間なので、米山奨学生が卓話をする時の役に立てほしいからです。2 日目、柿田川湧水公園の清掃活動は百数十人が参加しました。国際ロータリー第 2620 地区（山梨・静岡）のみなさんも参加されました。ご一緒できて、素晴らしかったです。良い経験でした。私も柿田川湧水公園の清掃活動は初めてでした。とてもきれいな川です。ボランティア活動だからこそ川に入る許可を得ることができました。みなさんとご一緒できたこと、私自身も勉強になったことが嬉しかったです。



チーム嶋村 ガバナー月信

嶋村：青少年交換の来日学生、ROTEX、ローターアクター、そして米山学友も柿田川湧水公園の清掃活動に参加してくれました。そして、交流できました。環境は、RI の重点項目に追加されました。チーム嶋村として環境についての事業を行うことができました。何よりも、天気にも恵まれたのが一番良かったです。さて、エーさん。米山奨学生になって16年ぐらいが経っていますが、ロータリアンと触れ合って何か感じたことはありますか？

4. ロータリアンと米山奨学生の交流

インタラチット：ロータリアンは家族みたいなものです。気軽になんでも相談できます。これからももっともつつながっていく感じです。私はタイ人です。タイで困っていることも、いつも世話クラブやいろいろなロータリアンと、私が中心になってつながって活動ができています。すごく嬉しく思います。

嶋村：米山奨学生にはいろいろな人がいて、国も異なりますが、米山奨学事業の理解が深めるために、会長からクラブに対してこういうふうにお声掛けをしてほしいとか、こういうふうに米山奨学生・学友と接してほしいとかありますか？

インタラチット：米山奨学生の初めの頃は、何で土日なのにゴミ拾いのイベントに参加するのだろう？その頃はなんなんだろうと思っていました。しかし実際に参加してみたら、いろいろな人と出会えて、友だちができました。また、ロータリアンからビジネスのことなど学べて、ロータリーがどんどん好きになりました。

嶋村：ロータリアンとの交流がスタートラインということですね？

インタラチット：そうです。

嶋村：会長のみなさんには、米山奨学生と交流をしていただきたいです。本年度、当地区は38人を受け入れていますので、2クラブに一人はいます。来年3月4日、米山奨学生の期間終了式をオープン型で開催します。ここを交流の機会とすることを考えています。猪飼部門長、いかがでしょうか？

猪飼：そうですね。オープン型は今まで行っていませんでした。期間終了式はとても良い雰囲気、感動的な場面があります。しかし、参加されないとなかなか説明しづらいです。本年度、米山奨学生を受け入れていないクラブのみなさんにも参加していただき、米山奨学生の良い場面を見ていただく機会としたいです。会場は、池袋にある自由学園明日館です。式典で人のお話を聞くだけではなくて、人との関り、交流をつくっていただきたいと強く思っています。ぜひ、ご参加よろしくお願ひします。

嶋村：エーさん。米山梅吉記念館に行って、感じたことはありますか？

インタラチット：私が米山奨学生の紹介ビデオに写っていたことに、びっくりしました。米山奨学生の第

一号がタイ人だったことにすごく感動しました。日本とタイのつながりは深いですね。

嶋村：明後日、帰国したら、今回の出来事をタイの米山学友に伝えてほしいです。また、タイの米山学友が米山梅吉記念館を訪問するようであれば、私たちがサポートさせていただきます。

インタラチット：ありがとうございます。

5. 交流から国際理解、世界平和へ

嶋村：米山奨学事業は世界の平和を目指す日本のロータリーの大事な事業だと思っています。ロータリアンが米山奨学生のみなさんからいろいろな情報、国の実情を聴いて、国際理解をする。ロータリアンがすべきだと思っています。そのためには、クラブの中で米山奨学生・学友の素晴らしさ、いろいろな国の事情を知ってもらいたいです。9月3日に開催された米山研修会では、ポーランドの米山奨学生が隣国であるウクライナのことをお話ししてくれたようです。



猪飼：はい。米山研修会のテーブルディスカッションではテーマ設定をしましたが、そのテーマ以外のこういうコミュニケーションもとても大事なことです。戦争のことや300万人ぐらいの避難民のことをお話ししてくれました。たまたま1週間前にポーランドに帰国していたそうですので、現実のお話しを聴くことができました。

嶋村：会長のみなさんには、この米山月間に米山奨学生の国の実情をじっくり聴いてほしいです。エーさん、日本訪問で気付いたことはありますか？

インタラチット：良かったことですが、いろいろな人と出会えたことです。国際ロータリー第2580地区のみなさんとです。国際ロータリー第2590地区のみなさんと似ているなあ、こういう方法もあるのかあと感じました。良く準備もできていて、米山奨学生とも一緒にお話しができました。米山奨学生とお話しをしていて、みなさん、不安なことがいっぱいありました。だから、カウンセラーが必要です。米山奨学生はカウンセラーと交流してほしいです。そのつながり、縁を大事にしてほしいです。米山奨学生は、今は何もないと思っているかもしれません。しかし、将来には何かにつながります。

嶋村：ありがとうございます。猪飼部門長、10月は米山月間ということで、会長のみなさんへメッセージをお願いできますか？

猪飼：米山月間に関わらず、年間を通して米山奨学生を受け入れていただいたり、ご寄附をいただいていること、そして、さまざまご協力に感謝します。米山奨学生の割振りはなかなか難しいですが、ほとん

チーム嶋村 ガバナー月信

どのクラブに快く受け入れていただいていることにも感謝します。長い目で見れば、日本と米山奨学生・学友の国とのかけ橋になります。好きな国、嫌いな国はそれぞれの人の感覚としてあるかもしれません。

「この国は怎なの？」という国の米山奨学生にこそ、日本をどんどん好きになってもらえように関わっていただきたいです。米山奨学生が帰国した後、その国の人たちが日本の悪口を言っている、「ちょっと待ってください。私がいまあるのは日本のロータリーの米山奨学事業のおかげなんです」と言えるようになるように接していただければ、すごくありがたいと思います。また、ロータリーは DEI に力を入れています。米山奨学生に関わることが正に DEI そのものです。ダイバーシティ（多様性）を念頭に米山奨学生に接していただきたいと強く思っています。

嶋村：猪飼部門長、ありがとうございました。エーさん、私はタイに一度も行ったことがないので、タイに行ったらよろしくお願ひします。

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

6回	堀田 康彦 (東京神田)	
5回	宇津木 奈保美 (東京ワセダ)	
4回	岩崎 俊治 (東京神田)	高山 真行 (東京西北)
3回	中島 弘人 (東京ワセダ)	
2回	瀨瀨 公夫 (東京神田)	
1回	須賀 富士夫 (東京西北)	鈴木 一行 (東京神田)

ポール・ハリス・フェロー

	小林 正宣 (東京西北)	松尾 智之 (東京西北)
	山川 信彦 (東京西北)	松本 正 (東京神田)

米山功労者・メジャードナー

31回	鈴木 喬 (東京江北)	
16回	野崎 一重 (東京東村山)	
15回	芝 久雄 (東京江北)	

米山功労者・マルチプル

9回	長與 博典 (東京後楽)	
----	--------------	--

米山功労者

	清沢 祥平 (東京後楽)	土屋 武司 (東京江北)
--	--------------	--------------

8月31日分まで 敬称略、順不同

入会者情報 ～クラブにおける会員増強のためのヒント・アイデアを提供します～

1. 情報収集の時期

2022年8月16日から9月15日まで（なお、入会日は8月1日から9月12日まで）

2. 入会者数（任意の提供ですので、実際の人数とは合致していないと存じます）

4名

3. 入会者の年齢層（小数点第2位切捨て）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	0	0	1	3	0	0
割合	0%	0%	25.0%	75.0%	0%	0%

※最年少31歳、最年長82歳

4. 入会者の性別（小数点第2位切捨て）

	男性	女性
人数	3	1
割合	75.0%	25.0%

5. 職業

資源再生業、ビジネスサービス、社会保険労務士、不動産業

6. 紹介者との関係

他クラブ会員・元ロータリアンの紹介、同じ法人の後任、知人（2名）

7. クラブ別の入会者数（クラブ名、一部省略）

東京ワセダ（1名）、東京後楽（1名）、東京武蔵野（1名）、宮古島（1名）、以上4クラブから回答

8. 特記事項

東京ワセダ、東京後楽、宮古島は、先月号にもそれぞれ1名、1名、3名の入会者情報の提供がありました。

ご協力いただきましたクラブのみなさま、入会者情報をご提供いただき、誠にありがとうございました。

心よりお悔やみ申し上げます

田中 永二（たなか えいじ）会員

東京武蔵野中央ロータリークラブ

ご逝去日：2022年8月10日 享年79

入会日：2001年2月22日

（有）ランドスケープデザイン研究所 代表取締役

ポール・ハリス・フェロー、米山功労者

編集： 国際ロータリー第2580地区 ガバナー月信編集委員会

ガバナー月信へのお問い合わせ／コメント： info@motoffice.jp

チーム嶋村 ガバナー月信